

Structure Kansai No.39 '95.11'

第6回 J S C A 関西支部海外研修会報告 欧洲建築事情視察

ロンドン・パリ海外研修会報告



人生は旅である。この旅の疲れを心身共に癒やすもの一つに海外旅行がある。6回目を迎えた今回の計画は昨年度のオーストラリア旅行の反省会の席上のアンケートの結果を踏まえて企画された。不況の中でも自費で参加出来る金額と有給休暇を利用できる日数を考えて、5泊6日198,000円でロンドン・パリの2都市の再開発された新しい建物の構造の見学を中心とした研修旅行である。総数35人の中には中部支部からも2人の参加を得て6月25日から7月1日迄和氣あいあいと無事故で実り多い旅を続けた。

ロンドンの夕暮れは遅い。ホテルでの部屋割後は、夕食に繁華街に繰り出す。パブでは立ち飲み客が一杯、道にまではみ出して男女老若が口角泡を飛ばしていて街は熱気に包まれている。青果市場を改造したガーデンは楽器が鳴り響き、オペラテラスの手摺は鈴なりの若い人達で夜を盛り上げている。夕食後はチームズ川岸を散策してピックベンのライトアップを見に行く。快晴に恵まれた翌日は、“第2のシティ”に発展するともてはやされたロンドン東部の再開発地域ドックランドを見学する。不動産不況で開発が予定通り進まず迷走しているが50階建244mのシーザー・ペリ設計の英国一の高層ビル「カナリー・ワーフ・タワー」や、軽便鉄道の駅舎が目を引く。午後からセッタバッケした2重アーチがランドマークの話題の再開発、エンパンクメントプレースを見る。チャーリングクロス駅の既存のプラットフォームをそのまま使用して上部にオフィスビルを建設し、こ

の床を吊って上記のアーチが支持している。構造が形態に表現されている。シティーの中心にあるリバーブルストリート駅周辺の再開発ブロードゲートはアラップとSOMの設計。中でも最も印象が深かったのがたエクスチェンジハウスで鉄道をまたぐ78mスパンの大アーチは上の階の床を受け下の階の床を吊っている。古い駅舎の屋根と対比して面白い。1階のピロティーもダイナミックである。

日曜日のフリータイムを利用して4人の自称関西J S C A会のプロがロンドン郊外ヒースロー空港近くのパッキンガムシャーゴルフクラブ(18H 6880Ydプレー費40ポンド)へ朝早くから出かけた。最初は世界一のプロゴルファーを決定する「世界マッチプレー選手権」の常設会場の「ウエントワース・ゴルフクラブ」を考えたがJ G Aハンディキャップ証明書が必要とかで変更した。英国のゴルフコースと云えばセントアンドリュースに代表されるリンクス(ゲール語で海浜の荒野のような遊休地)であるが、ここは田園風景が四季折々に変化する。静かな林の中を流れる小川、鴨が浮かぶ池、魔女の簫をおもわせる風にたなびく深いヒースの草原、それらがうまく組み合わされた緑のコースはカントリーライフが楽しめる舞台だ。時代を感じさせる貴族の邸宅を改装したクラブハウスは名画が飾られアンティークの家具が落ち着いた雰囲気をかもし出し人の気配も少ない。プレー後に真っ赤なバラが咲き乱れるテラスで飲むビールの味は格別で、悪戦苦闘したスコアも忘れ去った。帰りは900年の歴史を持つウィンザー城に寄り道をして石積みの古城を見学した。その夜はホテ

関西支部事業委員長 真塚 達夫

ルでの夕食会で一同に会しロンドンに別れを告げた。

パリでの見学のスタートはデファンスの新凱旋門。地下鉄が貫通するこの1辺110mの立方体はオリジナリティーに富んでいる。パリ・サミットが行われた屋根部分はP C構造で、パリの景観が眺望できる。ステンレスのワイヤーと支柱で構成されるエレベーターと雲のような雨風よけのテントは、魅力的な構造である。次に訪れたのはパリの食肉市場跡地を再開発したヴィレットで、サンクンガーデンと池にとりかこまれてフランスの古城を連想させる科学産業博物館は、南面の3つのガラス張りの温室透明感あふれるサッシュレスのケーブルシステムが美しい。正面中央の銀色に輝く球体の「ジェオド」は内部が映画館で、外壁に周囲の景色を写し出す彫刻がある。夜はセーヌ河をパトームーシュでディナークルージング。船からの照明に映し出される両岸の建物を楽しむ。特にオレンジ色にライトアップされたエッフェル塔の美しさは格別で昼にみる姿より更に美しい。パリ2日目は市内の新しい建築物(大蔵省・新オペラ座・アラブ世界研究所・ポンピドーセンター・フォーラムデアル・オルセー美術館)を見学する。

最終日はルーブル見学である。入口の象徴的な高さ21mのガラスのピラミッドのディテールは美しい。中央エントランスのラセン階段とその内部を昇降するエレベーターも人目を引く。かけ足で主要な作品を見て退館する時は雨が降っていたが、急いでホテルへ戻り空港へと向かった。



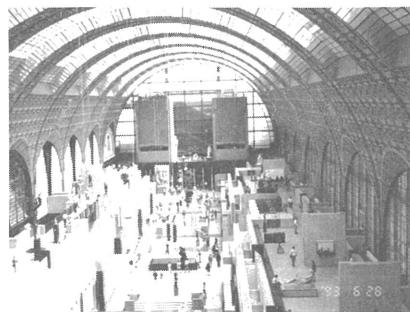


ロンドン・パリ新旧の交錯

小林 勝一（清水建設）

近年話題になったロンドン・パリの再開発を見ようと総勢35名で7日間の旅に出発した。私にとっては21年ぶりのヨーロッパであり、学生時代のあの感動をもう一度甦らせようとの思いもあった。6~7月は気候が良く、日も長く、6月末から始まる大バーゲンセールも重なり訪れる観光客も多い。空港から郊外の住宅地を抜けて、ロンドン市中心部へ。家々には今は使われていないレンガ造りの煙突を伝統とシンボルで残している。いかにも英国らしい。ハイドパークを通り過ぎ、大英博物館に程近いホテルに着いたのが午後6時頃。まだ昼間のように明るい。テニスの温ブルドン大会とも重なり、ホテルは超満員であった。

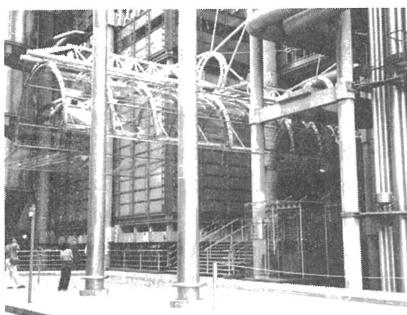
翌朝、バスでシティの金融街を抜けてドックランズへ。シティの町並は大英帝国時代の重厚な石造建築物が建並び、歴史のロマンが思う存分満喫できる素晴らしい景観である。モダン建築も所々顔を覗かせてはいるが、伝統的外観を保存しながら建っている。開発と保存の間で常に揺れ動いているロンドンの現状を目の当



りに見た。そんな中でロイズビルの骨組と設備ダクトが交錯するメカニックでメタリックなジャングルジム、細い鋼棒で非対象に吊られた半円形のガラスの庇、まるで前衛芸術を想像させる超近代的な外観にはさぞ非難の嵐が吹き荒れたことであろう。

シティの東、テムズ川沿いにヨーロッパ最大のウォーターフロント開発が進められているのがドックランズである。開発公社の案内でアイルオブドッグズ地区を見学した。シーザ・ペリ、I.M.ペイ等著名建築家による超高層・中層群が林立し、斬新なデザインで種々な顔を持つ。テムズ川越しに見える伝統建築と対比しながら、英國経済復興の未来を見るような気がする。

ロンドンからパリまでわずか1時間の行程である。落着いた静かなロンドンと比べるとパリは多くの観光客で賑わい、活気が溢れる街だ。'89年のフランス革命200年祭を彩ったグラン・プロジェの新しい魅力の数々を見ようとパリ近郊のデファンスへ向った。広大な人工地盤の上に新凱旋門がそびえ立つ。一边110m



海外研修会、雑感



海外研修の回覧が社内に廻されたのも忘れていた頃、参加予定者の都合により私は話が廻ってきた。楽しさと不安が半々、また数日後に旅のレポートを書く話が舞い込み、戸惑っている内に参加することになりました。研修目的の旅行ですが、出発日直前に本屋で買った本を一読するのが精っぽい。現地での説明も他の方のようにメモもせず、ただ聞くだけで忘れてしまったのが現状です。建築的な話は他の方のレポートを読んで

角谷 保（平田建築構造研究所）

もらう事として、私は旅の日記程度を書かせていただきます。

一日目、うっかり者の私は成田空港で集合場所をまちがえてもう少しで置き去りにされるところでした。皆さんに大変迷惑をかけた事をここでお詫びしておきます。12時間の飛行機の旅でイギリスに着き、機内での疲れも忘れて、さっそく、知り合った方と連れだって市内に出かける。日没が9時半という事で遅くまで市内は賑わっている。移動はタクシーを利用、新旧の町並みが道路の両側を流れて

の立方体の大アーチとその中に仕組まれた細いステンレスパイプのE.L.V.シャフトと蜘蛛の巣の様なテントは静と動がうまく表現されている。パリ市内に目をやるとエトワール凱旋門がぼんやりと浮びあがり、その延長線上にルーブル凱旋門



があり、一本の軸線を構成しているらしい。その夜、セーヌ川を周航するバトームーシュのディナークルーズに参加した。両岸にはルーブル、オルセー美術館、ノートルダム寺院等歴史的町並が続く中でアラブ世界研究所のモダン建築が見え隠れするが、新旧がうまく調和され、違和感が全くない。美味しいワインとフランス料理に舌づみしながら、パリの夜を楽しんだ。翌日、印象に残ったオルセー美術館を訪ねてみた。90年前の駅舎を改造したと云う内部はバロック様式の重厚な外観からは全く想像も出来ない様なシンプルでやわらかい雰囲気がある。ガラスの丸天井や裏面のステンドグラスから注ぐ自然光は私の旅の疲れを癒すのには充分であった。21年前に見損ねたルノワール、ゴッホ等の印象派絵画をしっかりと心に焼きつけながらパリを後にした。

行く。空から見た緑の多い住宅地と違って都心部の混雑は日本と同様だ。道路が複雑で信号が分かりにくい、事故が起こらないのが不思議だ。はね上げ橋のタワー・ブリッジの所へ来て、絵や、写真で見た風景に出会いイギリスに来ている実感が沸いてきた。テムズ河畔に建つビッグ・ベン、国会議事堂、ウエスト・ミンスター寺院など、由緒ある建物が並んでいる。近づいて建物を見ると、外壁の汚れが斑になって見苦しい。風情のあるたたずまいが随所に見られるが、街角には閉鎖された商店が多く今日のイギリスを象徴しているようだ。



二日目、ドッグ・ランド開発の視察、世界的な不景気の中でこの開発も遅れている様だ。しかし、飛行場まで併設されているスケールの大きさには目を見張るものがある。午後は自由時間、ショッピングを兼ねた市内見物、三越デパートに入つてみると日本人ばかり、値段も日本とあまり変わらず、すぐ外に出る。移動している途中でデモによる交通マヒに会つたが、この国の人のはいたって冷静で、のんびりしている、これが国民性か。

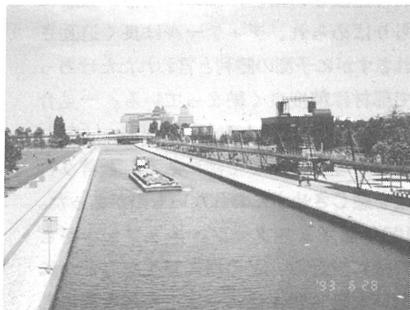
三日目、久徳氏がチャーターされたマイクロバスに便乗させてもらいスタン・スタット空港へ、パイプ構造によるテント屋根の空港ビルはイギリス人の合理性が窺える。不景気な日本も見栄を捨て見習つたらと思った。帰りにケンブリッジ

に寄つてカレッジの町並みを見た。伝統のあるところという感じ、途中、結婚式に出会つたが出席しておられる女性が全てダイアナ妃の様に見えてイギリス人の男性を羨ましかった一幕もあった。

四日目、いよいよフランスへ、ラ・ディファンスの見学、人工地盤の上の建築物は近づく程巨大さを実感する。人目につく所とは逆に地下の駐車場施設は排気、照明施設共、お世辞にも良いとは言えない。午後のヴレット公園は広さだけが印象に残った。

五日目、ベルサイユ宮殿見学。宮殿のスケールに驚く、贊沢が王政を滅ぼした原因と聞いて納得。午後はショッピング、去年、香港で6万円で買ったパックが27万円と聞いてビックリ。（あれはニセモノかも？）遠くからみても近くからみてもエッフェル塔の美しさには感動させられる。塔には、15分程並んで登ることが出来た。市内が一望でき、パリの美しさが手に取るようだ。夜はセーヌ河の船上で夕食、両岸は若いアベックが多い。まるで、こちらが団いの中の猿の様だ。船内は日本人が半分以上、金持ち日本の感じがすると同時に贊沢を感じた。

六日目、いよいよヨーロッパでの最終日。ルーブル、オルセー美術館へ、開館



前に行って並ぶ。立派な絵画もこれだけ多く有つては、まるで普通の絵のように感じて感激も薄れがち。最終日とあって、足の痛みもピークに達している。オルセー美術館からホテルへは足が痛くて歩けずタクシーで帰る始末。

今回の旅行は自由時間が多く、見る所を欲張つたせいか、日没が遅い事もあってよく歩いた。時間に捕らわれない自由な旅も楽しいものだ。今度来るときは、古い町並みをゆっくり時間をかけて歩いてみたいものだ。建築に携わる一人として近代的な建物を造るのも良いが、古い町並みは住む人の気持ちを和らげ、街に潤いを持たせている事を忘れてはならないと思う。

最後に幹事の方、私に付き合つて案内してくださいました方有難うございました。



LA TOUR EIFFEL 古久保恵一（竹中工務店）

今回の海外研修での私の目的一つは、「おのぼりさん」に徹し、エッフェル塔に登り、眼下に拡がる文化の香り高いパリの市街地を鳥瞰し、パリの歴史を想起し、パリの雰囲気を満喫することであった。本報告書は主にエッフェル塔について記すものである。

かつて「無益にして醜惡なるエッフェル塔」と酷評され、またモーパッサンが、しばしばエッフェル塔で食事をし、「ここはエッフェル塔が見えないパリの唯一の場所だから」と皮肉られたエッフェル塔。しかしながら現在では万国共通のパリの象徴として聳え立っている。私の今までの旅行では、長蛇の列の観客に嫌気がさし、シャイヨ宮から望み、また直下よりただ見上げたに過ぎなかつた。今回のホテルがエッフェル塔の近くと聞いた時、小躍りしたものであつた。

ロンドンを満喫し、パリに到着した日、山崎さん・新保さんと三人でカルネを購

入し、METROでch.de Gaulle-Etoileまで行き、楓の並木のもとオ・シャンゼリゼと洒落こんだ。ロンドンより遙かに活気のあるパリを実感し、ホテルへの帰途、11時頃であったが我々の目に飛び込んで来たダークブルーの夜空をバックにし、ライトアップされたエッフェル塔は、えも言われぬ幻想的な美しさであった。是非一見に価する。

翌朝我々は、真先に70km四方が見渡せると言われているエッフェル塔の第三テラスに登るための行動を開始した。先ず意志の強そうな「鉄の魔術師」と言われたギュスター・エッフェルの像を写真に納め、多くの細い山形鋼よりなる透かしと言われているアラベスク模様の装飾アーチに目を奪われた。52F払つて第三テラスまでの切符を購入し斜行エレベータで第二テラスまで登つた。エレベータより見る鉄骨は、数年前阪急百貨店梅田店で見た展覧会での図面を彷彿させるものがあった。エレベータを乗り換つて第三

テラスまで一挙に登り、そこで目にしたパノラマは期待通りのものであった。足元にはセーヌ川が緩やかに流れ、東側はシャン・ド・マルのフランス庭園のすばらしい花壇からアンパリッド～モンパルナスターへとつながつてゐる。北東部のモンマルトルの丘にはサクレ・クール寺院が見渡せる。一方西側にはシャイヨ宮が翼を拡げその向こうにはブローニュの森が横たわつてゐる。彼方にはデファンスの新凱旋門が霞んでゐる。パリの街も古くからある一種の都市の法則に従い東より西に、すなわち太陽の登る方向より沈む方向へと発展してゐる様である。市街地は薄茶色した低層のまるで様々なショートケーキを並べた様な街区が所狭しと並んでゐる。確かにパリを自分のものとした感があった。

一方、目を転じて塔に目をやれば、橋梁の技術を生かし、多くの部材で構成された練鉄より成る塔は、歴史の風格を感じさせるに十分なものであった。100年

前に建設されたとは思えぬ技術が随所にちりばめられ、ディテールは良く追及されますが予測の勝利と言われたたけあって部材は精度良く納まっている。一見合理的と思われない部位もあるが、「美しさは合理性のすぐそばにある」と言う言葉を感じさせずにおれないものがあった。100年前ギュスター・エッフェルがどの様に設計し、どの様に施工をしたかに思いを馳せ我々はエッフェル塔を後にした。日本に帰り、改めてエッフェル塔についての文献を紐解き感慨を新たにしている次第である。

最近、なにわの町のシンボル・通天閣が若者の文化基地として注目を集めていると聞く。塔は常に人々の注目を集め、関心的となるらしい。高い所に登ることに興味がある私として喜ばしい限りである。

第6回JSCA関西支部海外研修会視察報告



今回はじめてJSCAの海外研修に参加した。参加されている方々とは初対面で、集合場所の大空港では少し緊張気味のぎこちない雰囲気であった。しかし、別室での結団式を終え、12時間の空の旅の半ば頃にはようやくなごみ、それぞれに地図やガイドブックを広げて探索予定に会話がはずんだ。

現地時間午後4時、ロンドンのヒースロー空港に無事到着。時差が8時間で日本では真夜中と言うことになるが、ここでは日差しも高く一日はこれからである。眠気と格闘しながらバスで大英博物館の近くにあるホテルに向かった。

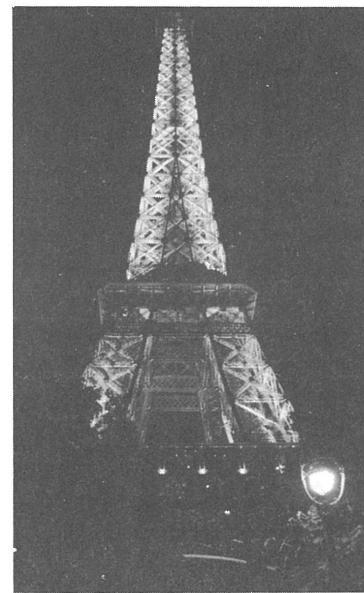
翌2日目、夜明けが早いせいか、興奮しているせいか、5時に目覚めてしまい眠れそうに無いため朝食までの時間、早朝のロンドンを探してみることにした。地図を片手に、昨夜バスがホテルに進入して来た逆方向に行ってみる。さすがに土曜日の早朝だけに少し気味悪いくらい人影も通りの車もまばらで、時折、黒塗のタクシーが走っている程度だった。しかし、薄もやに中世の古い建物が立ち並ぶ風景は改めてロンドンに来ている事を実感させてくれた。

朝食後ホテルのロビーに集合。私以外にもかなりの人達が早朝の散歩に出ていたようだ。全員揃ったところでドックランド再開発地区の見学会に出発。途中、青果市場を改装してヨーロッパでも有数

Good to be alive !

エッフェル塔メモ

高さ 320 m
竣工 1889年
工期 26ヶ月
鉄骨重量 7,341t (東京タワー3,600t)
部材数 18,038ピース
リベット 約250ピース
図面枚数 5,329枚 30人×18ヶ月
年間来客数 約500万人



新保 勝浩 (和田建築技術研究所)

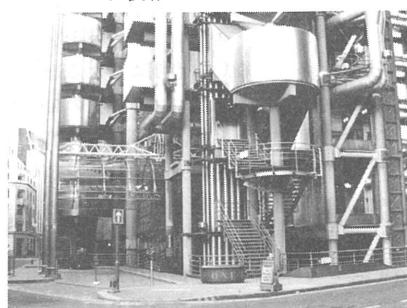
して作られた外部階段など、すべてに工夫を凝らした印象深い建物であった。

翌3日目、数人のグループでロンドン近郊の新空港となったスタンステッド空港を見学した。リバプールストリート駅から英國鉄道に乗り、直通で約40分、絵に描いた様のどかな田舎の風景の中を通り抜けて空港ターミナルに到着。主要構造はグレーに塗られた4本組の鋼管柱から四方に伸ばされた鋼管梁を中心の支柱から吊り、軽量の屋根を支持する簡単な構造ユニットで構成されている。(写真2) まるでイベント会場の様に思えてしまうこの建物は、さすが経済性を追求し2/3の工事費用で建設されたと言われるだけあって、まるで無駄?がなく(案内表示盤もアナウンスも殆どない)



(写真2)

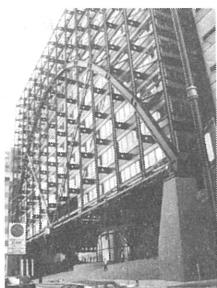
通常の空港ターミナルのイメージとはほど遠い。この是非は別として、高級感を取り除き、利用者にとってごく一般的な交通機関(バスや電車など)だとしてとらえた設計主旨は、空港を身近なものとして利用する事ができ、とても新鮮で



(写真1)

あった。

帰りに、まだ一部工事中のリバプールストリート駅周辺の再開発地区に立ち寄った。建物はそれぞれ著名な建築家の設計によるものばかりで、中でも、SOMによる建物は全体を両端のピン支承のみで支持し、構内のすべての路線をまたぐよう建てられ、耐火被覆のない鉄骨アーチとラーメンをむき出しにした構造フレームを意匠デザインに取り入れた斬新な設計で圧巻だった。(写真3)



(写真3)

今回の研修は、恵まれた天候と当地の夏時間のおかげで、行動範囲が広がり予想以上に多くの建築物を様々な角度から見ることができた。特に、随所で見られた意匠デザインにとけ込ませた構造ディテールは、繊細ながらも力強さを感じさせ、その上、色使いも美しく学ぶところが多くあった。

最後に、この数日間で体験した事、参加された多くの方々と知り合えた事など、今後、機会があればこれらを糧にして何等かの形で生かして見たいと思う。



構造実験雑感

日本建築総合試験所
構造物試験室 室長 益尾 潔

筆者は、昭和51年に日本建築総合試験所に入所し、それ以来17年間あまり、構造物試験室で構造試験ないしは構造実験を担当していました。今回、STRUCTURE KA NSAIのコラム欄に投稿するようにということで、日頃たずざわっています構造実験について所見を述べたいと思います。

我々の試験所では、依頼試験を業務としていることから、学術研究のためのみの実験を実施することは例外的で、品質確認、設計法の確認、新材料および新工法の開発を目的とした試験ないしは実験を実施しております。上記のいずれの項目についても、実験のパラメーターあるいはその方法が確立されていないとすれば、実験計画を立案するにあたっては、できるだけ具体的に実験目的を明確にし、かつ、その結果得られる結論を予測することが最も重要なことだと思います。といいますのは、実験計画にあたり、考えられるパラメーターあるいは実験方法は、極端にいいますといふらでもあり、よほど目的を明確にしておかないと、実験結果が単に得られるだけで、意義のある結論を導きだすことができないことが往々にして起こります。

また、構造実験屋としましては、加力方法および変形等の測定方法の重要性を

あげたいと思います。加力方法にしても、実験目的に応じた試験体のモデル化があつてはじめて意味をなすと思います。測定方法については、物理量として意味のある測定値を得ることが重要だと思います。往々にして、測定精度を無視した測定方法がとられることがあります。これについても、あらかじめ測定結果あるいは実験結果をある程度予測することにより避けることができると思います。

STRUCTURE KANSAIの読者は、ほとんどが構造設計者の方々で、構造実験に直接タッチされる方は少ないと思います。ただ、構造設計に際して、建築学会等の既往の論文を引用し、参考にされることがよく見受けられます。そのような際、この小論が構造実験にかかわる記述の裏にある事柄を読みとる参考になればと思います。

なお、試験と実験という言葉は、通常、研究的に行われる場合には実験、単にその結果を確認する場合には試験、というように区別して用いられています。ここでは、その区別をあえてそれほど明確にはしておりません。

J S C A 欧州建築事情視察団 参加者名簿

名前	会社名	名前	会社名	名前	会社名
1 山崎 勇	株式会社 長田建築事務所	13 侯野 博	株式会社 竹中工務店	25 角谷 保	株式会社 平田建築構造研究所
2 上崎 行生	フドウ建研株式会社 大阪支店	14 小澤 淳	片山ストラッテック株式会社	26 福山 國雄	株式会社 竹中工務店
3 吉川 寛	フドウ建研株式会社 大阪支店	15 福森 亨	株式会社 東姫建築事務所	27 荒川 千吉	有限会社 荒川構造計画事務所
4 北條 稔郎	株式会社 北條建築構造研究所	16 近藤 一雄	株式会社 東姫建築事務所	28 荒川 富子	有限会社 荒川構造計画事務所
5 北條 悅子	株式会社 北條建築構造研究所	17 田中 利幸	株式会社 竹中工務店	29 竹ノ上幸則	株式会社 竹ノ上
6 上野 史雄	真柄建設株式会社	18 荒川 宗夫	有限会社 荒川構造計画事務所	30 竹ノ上理恵	株式会社 竹ノ上
7 米田 哲夫	松尾築業株式会社	19 小林 勝一	清水建設株式会社 大阪支店設計部	31 江西 修	株式会社 江西建築事務所
8 新保 勝浩	株式会社 和田建築技術研究所	20 妻鹿 誠己	藤本鋼構株式会社	32 江西 良子	株式会社 江西建築事務所
9 野口 新	株式会社 野口建築事務所	21 梅木 信正	住金物産株式会社	33 安住 仁志	東和産業株式会社 新見工場
10 真塙 達夫	株式会社 東姫建築事務所	22 中島 久	川崎重工業株式会社	34 後藤 清長	株式会社 藤川原設計
11 久徳 敏治	株式会社 竹中工務店	23 馬瀬 芳知	株式会社 馬瀬構造設計事務所	35 古久保恵一	株式会社 竹中工務店
12 久徳正實子	株式会社 竹中工務店	24 藤井紀美子	株式会社 馬瀬構造設計事務所		

●事務局よりのお知らせ

- 建築構造士認定の特別研修会が始まります。10/30に国民会館で第1グループ、12/11に大阪証券会館で第2グループに対して実施され、受講者は各々140名余りとなっています。第1グループ

は11/19～11/27に行われる面接試験を経て年内に建築構造士が誕生という運びです。未だ受験申込をしていない方々は、来年是非応募して下さい。
・建築11団体の合同新年交礼会への参加を募ります。奮ってご参加下さい。

日 時 平成6年1月4日(火)

14時30分～15時30分

会 場 大阪コクサイホテル8階

参 加 費 3,000円

申込み 支部事務局



建築学会みてある記

平野 忠人（竹中工務店）

今年の日本建築学会大会（関東・東京）は、9月2日から9月5日まで、東京立大学にて開催されました。

発表題数は5004題と史上最多となり、年々建築学会もマソモス化して来ている様に思われます。

会場となった、東京都立大学新キャンパスは、八王子市にあり1991年3月に竣工したばかりのとても美しいキャンパスで、建築群もさることながら、路面が均一のアスファルト舗装ではなく、各種タイル・石で仕上げられており、建物との融合が印象にのこりました。

また会期中、超大型台風13号が九州地方に上陸し、九州方面からの交通が寸断され、何人かの方々が会場に来られなかつたのではないかと思われます。台風情報は日々と大会本部の掲示板に示され。我々の便宜を計っていただけた大会関係者の気配りに感謝するとともに、幸いにも関東地方には台風による影響が少なかった事をつけ加えておきます。

さて、大会の中身の方ですが、初めて4日制になり、論文1件あたりの発表時間が若干長くなった感があり、各講演会場は熱気につつまれていた様に思われます。私も全会場を廻った訳ではありませんが、NEW・RC、大空間屋根構造、制振関係の発表会場には多くの人が集まり、時代に反映された話題に興味を引かれた方が多かったのではないかと思われます。

つぎにパネルディスカッションについてですが、2・3の会場を見た限りにおいては、ほとんどの時間がパネラーの発表時間にさかれ討論の部分が少なく、あっても事前に協議されているような用意周到な質疑であり、そろそろパネルディスカッションのあり方については、再考する時期に来ているのではないかと感じさせられました。

最後に、梗概集についてですが、発表論題がさらに増加し分冊されていてもかなりぶ厚く、持ち歩きに関して言えば、かなり不便である。大半の方々は梗概集をカッターで切断し持参して来ておられるのが現状であると思われます。そこで、梗概集をバインダー止めか何か、分離可能な装丁になさってはと思いますが、如何なものでしょうか。



北風 幸祥

◎ (有)北風建築構造
研究所
◎ 油絵 テニス

只今、宝塚歌劇に凝っています。まっ白な彼女達が、いろんな色を演じていろんな色に染まっていく姿は、すごい魅力です。完璧な化粧もいいが素顔が又素敵。建築も又しかり。不惑のおじさんとしては、白とは言わないまでも、せめてシルバーグレーな生き方をしたい。とためいきひとつ。



山盛 保男

◎ 詳建築設計
◎ 囲碁、つり、キャンプ

日本建築構造技術者協会には、10年前からお世話をっています。

事務所を開設して5年目になります。この間、土地本位制の崩壊が企てられ、建築界の打撃は大きく、2次、3次受注形態の構造事務所にも波及しつつあります。生き残る為の技量upも当然ですが、もっと大きなレベルでの発想の転換が必要ではないでしょうか。



中西 貞夫

◎ (有)川平田建築構造
研究所
◎ 旅行、スポーツ観戦

様々な角度から物事を見つめ、全体を把握することの大切さを最近は今までにも増して強く感じています。これからも出来る限りゆとりを持ち、何事に対しても広い視野で眺め、柔軟に取り組むように心掛けねばと思っています。

●支部の動き

- 8/25 海外研修会反省会
- 10/13 関西新空港ターミナルビル見学会 参加者68名
- 10/14 建築11団体事務局会議

編集後記

強い不況風の中、又1年が過ぎようとしております。忍耐という文字が実感されるこの1年だった様に思いますが、来年はいよいよ関西国際空港開港の年です。



森高 英夫

◎ 稲安井建築設計
事務所
◎ ゴルフ、海外旅行記
を読むこと

大学時代に山本学治著「造形と構造」(鹿島出版社)で出会ったのがきっかけで構造の道を選択しました。この著書は現在でも、私が構造技術者であるための原点になっています。これからも、もっと意欲的にまた楽しく構造設計の仕事をしていきたいと思っています。



福田 充孝

◎ (有)アイエヌジー企画
設計
◎ 最近、水泳にこって
います。その他、写真

構造設計の仕事に関わって早や20数年、設計の手段も計算尺、ソロバンの時代からパソコンで行ない、しかも図面はCADで処理するまでに機械は進歩したがその分、機械に使われているような今日この頃でありますが、この辺でじっくり設計に取り組みたいと思います。



河本 純

◎ (有)川長谷工コーポ
レーション
大阪エンジニアリング
事業部
◎ スキー、釣り、囲碁

入社2年目の夏から構造設計を始め、ようやく15年。今、気になるキーワードは、構造設計とコンピューター、地震の2方向性、外力と部材耐力のばらつき、超高層RC造。経験を重ねるほど構造設計の難しさと面白を感じているこの頃です。いつまでも現役として構造設計に関わっていきたいと思います。

- 10/18 鉄骨分科会講演会
テーマ 「柱はり接合部の合理化を考える」
講師 田渕基嗣 神戸大学助教授
場所 日建設計大阪事務所

開港元年、これが起爆剤になって、希望の日の出を挙みたいものですね。

会員諸兄の御健勝を祈念しつつ、今年最後の号をお届けします。(小島、三原)

発行(社)日本建築構造技術者協会関西支部事務局
竹中工務店 大阪本店設計部 担当 侯野 博
TEL(06)538-5371-(5700) FAX(06)538-5445